

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 20年 7月 18日

【評価実施概要】

事業所番号	0770402121		
法人名	(有) 優信会		
事業所名	グループホーム泉ヶ丘		
所在地	〒970-8171 福島県いわき市泉ヶ丘2-45-7 (電話) 0246-75-1665		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成20年6月20日	評価確定日	平成20年8月7日

【情報提供票より】(平成20年 5月 25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 1月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	17人	常勤 1人, 非常勤 16人, 常勤換算	6.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1階建ての 1 ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000円	その他の経費(月額)	9,000円(2月~10月) 10,500円(11月~3月)
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○ 有(50,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,500円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	9名	男性 3名	女性 6名
要介護1	2名	要介護2	0名
要介護3	1名	要介護4	2名
要介護5	4名	要支援2	0名
年齢	平均 82.1歳	最低 76歳	最高 87歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	賀沢内科胃腸科、中村病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

いわき市泉ヶ丘のニュータウンにある1ユニットのホームである。併設事業所として、認知症対応型通所介護事業所、訪問介護事業所が事業所の向かいにある。事業所と運営者の自宅がつながっており、職員はいつでも困ったときに連絡をし、協力してもらえる体制となっている。認知症対応型通所介護事業所の裏で畑作りをし、利用者と一緒に収穫している。また、ホームのバスを利用して、お天気の日には、できるだけ外出(週に3~4回)し、室内に閉じこもりにならないようにしている。希望者の終末期に対応できるよう事業所の指針を作成し、利用者や家族の思いを大切にしながら取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 昨年の評価で取り組みが必要だと判断された「地域密着型サービスとしての理念」の項目は、地域密着型サービスの役割を考えながら職員全員で検討し、作成し直した。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員は評価の意義や目的を理解し、職員全員で検討しながら取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5) 推進会議のメンバーは自治会役員、民生委員、地域包括支援センター、家族代表等をお願いし、開催している。しかし、委員の都合を優先させてしまい、2ヶ月に1回の開催となっていなかったのは、残念である。会議の中では、グループホームの概要、利用者や職員の状況、外部評価結果、認知症について等を説明している。委員からは、専門的な用語を使われると良く理解できないので、誰にでもわかるように話しをしてほしいとの意見が出されている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族に対して職員は手書きで利用者一人ひとりの様子と事業所での近況を、写真を添えて報告している。利用者の状態変化については、すぐに管理者等から家族へ電話等で報告している。遠方の家族も月に1回は訪問があるためその機会に家族から意見を聞くように心がけている。聞き取った家族の意見等は、申し送り等で運営に反映させる体制になっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域のお祭りに参加したり、見学や実習等を積極的に受け入れたりしている。運営推進会議の開催により、自治会のパトロール隊が巡回するようになった。また、委員の意見で事業所のパンフレットを地域へ回覧したことにより、地域の人が見学に訪れるようになった。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者と家族の思いを受け入れ、住み慣れた地域で安心してその人らしく暮らしていることを事業所理念として、昨年、職員と一緒に作り直した。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	昨年度の外部評価の結果を受け、職員とともに新しい理念を作りあげたため、職員にも理念が共有されている。理念は事業所内数カ所に掲示されており、職員は日々の支援の中で意識しながら取り組んでいる。		今後は、新しい職員を採用した場合等に事業所の理念を実際の取り組みに掘り下げて伝えていくことが大切になると思われる。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りへの参加、見学や実習の受け入れ等をしている。また、自治会のパトロール隊が事業所を廻ってくれたり、自治会が地域へ事業所のパンフレットを回覧してくれたため、見学に訪れる地域の人が増えてきた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価の中で取り組みを期待したいとされた「地域密着型サービスとしての理念」と「重度化や終末期に向けた方針の共有」は職員皆で改善に取り組んだ。今回の自己評価は職員で話し合いながら行った。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、委員（自治会役員、民生委員等）の方々にグループホームや認知症を理解してもらえるよう事業所の概要、利用者や職員の状況、外部評価結果、認知症について等を説明した。委員の都合に合わせ開催したため、2ヶ月に1回の開催とはなっていなかった。	○	今後は、概ね2ヶ月に1回の開催となるよう、日程の調整をし開催することが望まれる。
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月職員が、利用者一人ひとりの様子とホームの近況を手書きし、写真を同封し報告している。利用者の健康状態の変化についてはその都度連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等からの意見等は、申し送り等ですぐに職員全員で共有し、運営に反映させるような体制となっている。		今後は、些細な意見や要望も記録として残していくようにされればさらに良いと思われる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動の際、新しい職員が慣れるまで馴染みの職員が見守りながら信頼関係を築けるよう支援している。指定基準より一人多く職員を配置しているため、余裕のある体制で対応している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は希望する職員が参加できるよう配慮している。参加した職員は、事業所で伝達研修を行っている。また、内部研修も会議に合わせて開催している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者や管理者が認知症グループホーム連絡協議会に参加し、他のホーム職員と情報交換する機会を通してサービスの質を向上させていく取り組みを行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、昔からある季節ごとの行事や食べ物(七夕飾り・芋がら作り・干し柿作り等)作りを利用者から教えてもらいながら一緒に行い、共に過ごしている。重度化してきた利用者には料理の味付けを覚えてもらうことが多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報、利用者との日頃の会話や様子の中から利用者の思いや意向を把握するように取り組んでいる。センター方式の一部を利用して、利用者の思い等を記録に残している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の思いを記録し、それを基に個別カンファレンスを開催し、職員の意見を取り入れ作成している。出来上がった介護計画を家族に確認しながら、支援している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画は定期的または、利用者の状態（体調）変化がある場合や思い等が変わった場合に、随時見直しをしている。また、計画終了時には計画の評価をし、状況に合った新しい計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている（小規模多機能居宅介護）	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望により、馴染みのかかりつけ医による適切な診断が受けられるよう支援している。家族による通院介助が困難な場合は、職員による通院介助を行なうと共に、受診日や受診の状況を毎月家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの重度化した場合における体制に係る指針（看取りに関する指針を含む）を利用開始時に家族に説明し、意志の確認をし、同意を得ている。		指針に記入されているように利用者の心身の状態の変化に応じ意志の確認を行なっているが、著しい変化がない場合でも意志確認の面談を実施することが望ましい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を守るためプライバシーにも十分配慮した言葉かけや対応をすると共に秘密保持の徹底が図られている。また、利用者の個人情報利用については、同意書により承諾を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日勤職員を4名配置し、職員が余裕を持って利用者の状況や体調に配慮した見守りを行なっている。また、利用者の思い出の場所を訪問するなど希望にそった支援を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来る事を把握し、利用者と職員と一緒に準備したり、片付けしたりして食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に沿った入浴時間を設定すると共に、利用者の健康状態に応じ主治医からの助言に基づき、利用者の羞恥心や抵抗感に配慮した入浴支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者の希望を把握した役割分担表を作成し、日常の役割ばかりでなく行事の際の役割も決めて、出来ることややってみたい事に配慮した支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	4月より運転手を確保しつつでも外出可能な体制となり、週に3~4回外出を行っている。希望に合わせて外出や買い物を実施したり、一人ひとりの状態に応じた外出支援を実施している		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	不審者情報等もあり、地域では一般住宅へ施錠するよう呼びかけている。現在、日中は鍵を掛けていない。		今後とも鍵を掛ける事の弊害を理解し、外出してしまう利用者にさりげない声掛けや見守りを行って欲しい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年12月に利用者も参加した総合避難訓練を実施した。また、毎月避難訓練を行ない、災害に備えた備蓄もされている。地域との協力体制もあり、災害時の地域の受け入れ先として検討されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーの計算された栄養バランスの良い食事の提供をし、毎食時に利用者ごとの食事と水分の摂取量を記録している。利用者の状況に応じた食事の量や好みによるおかゆ等の提供を行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天気が吹き抜けで、高窓からの採光により明るく広い共有空間になっている。利用者がくつろげるようソファが配置されており、利用者が希望した音楽を流し、中央のサイドボードには利用が作成した作品や花を生け季節感を感じながら、居心地よく過ごせるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、清潔で明るく利用者の使い慣れた身の回りの物や趣味の収集物が持ち込まれ、以前と変わらず居心地よく過ごすことができるように支援している。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム泉ヶ丘

記入担当者名 早川 ゆかり

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。